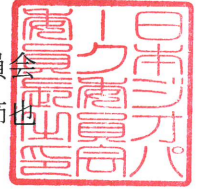


2022年2月21日

ジオパーク下仁田協議会
会長 原 秀男 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第44回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年1月28日に行われた第44回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

前回再審査での指摘事項は、指摘内容について一部誤解があったものの、改善もしくは前進がなされたことを確認できました。

貴地域の構成遺産は3テーマにより再編され、部会制度が機能し始めています。下仁田町観光協会との協力体制に強化が認められます。教育活動については、ジオパーク学習の組織的な推進が可能となったことが評価できます。

一方で、地球科学的な価値を分かりやすく伝え、専門的知識が無くても楽しめるよう、さらなる改善が必要です。加えて、これらの地質遺産の保全方針の策定が必要です。また、観光については、マーケティング調査に基づいた戦略や広報が十分でないように見られました。運営組織についてはマンパワーが十分とは言えず、ツーリズム担当、生態系専門家との連携を強化する担当が必要ですし、ジェンダーバランスの改善も必要です。また、パートナーシップについては、互いのメリットになるような協定締結を推奨します。

【優れている点】

- ・地質地形については、「海から陸への大変動の生き証人」、「太平洋と日本海を分けた古い火山」、「東西の文化とモノの交差点」の3テーマが示され、構成遺産が整理されました。その改定において専門家とガイドによる協働が見られ、ボトムアップによって改善が進められています。
- ・運営母体の部会制度は、部会員の献身的な行動もあり、良好に機能しています。
- ・専門家とガイドの連携が進んでいます。ガイドツアーや教育旅行等において地質現象の理解を助ける簡易実験装置、新たなジオツアーや体験プログラムなどの開発が進められています。
- ・観光協会の職員がジオパークの公認ガイドとなり、道の駅発着のジオツアーが企画されるなど、下仁田町観光協会との協力体制の強化が認められます。
- ・教育活動については、ジオパークの教育部会の構成メンバーでもある下仁田町教育委員会、小中高校の教員、専門家らによるチームが結成され、連携して実施されています。

【今後の課題・改善すべき点】

- I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）
1. パートナーシップ：ジオパークと連携することをメリットと感じて関与している商店や事業者、個人、イベント関係者、研究者、行政機関とのパートナーシップを構築し、協定の締結をめざしてください。
 2. ジオパークの可視性：再編されたテーマ・ストーリーをもとに、改めて下仁田ジオパークについて文書や図を使って概説し、可視化やガイドツアーの基礎となる情報を整備し、Webサイト、拠点施設での展示、実際のツアーやパンフレット、看板類などへ反映してください。
- II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）
3. 施設・インフラ整備：拠点施設である下仁田町自然史館には、ジオパークや地質のことを知らない人にも関心を持ってもらえるようなわかりやすいガイダンス機能が必要です。
 4. 地質資源以外の活用：生態系や無形文化遺産についての専門家との協力体制の構築が必要です。特に、荒船風穴とその周辺には、地質学的・生態学的な価値が認められるため、それを踏まえた管理・活用を行ってください。
 5. 事務局体制：持続的にジオパークを機能させるため、下仁田町や協議会で検討して、最適な方法で事務局員の増員や協議会メンバーでの連携分担等を図ってください。とくに、ジオツーリズムのさらなる発展のため、ツアー商品開発と広報の担当者が必要です。また、女性の正規職員がいないことも課題です。
 6. 道の駅での化石や鉱物などの販売：レプリカの販売、ジオパーク関連商品など代替案を考えながら鉱物販売がなされないよう協議を進めてください。
- III 中長期的に解決すべき事項
7. ジオパークエリア全体の保全計画を策定してください。
 8. マーケティング調査に基づき、戦略的にジオツーリズムによる経済への波及を進めてください。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上